

第 21 回 ^{みらい}未来からの^{りゅうがくせい}留学生
報告書

香川大学教育学部

第 21 回 未来からの留学生 を終えて

実行委員長 松島 充

この度、第 21 回未来からの留学生を令和 4 年 10 月 9 日（日）に実施致しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大への懸念が完全には払しょくできない中、事前の完全予約制、午後のみの実施として接触時間を短くする等の対策を講じながらの実施となりました。事前予約では、重複も含め、延べ 2296 名のみなさまから申し込みをいただきました。その中から 280 名のみなさまに予約確定メールをお送りさせていただき、当日は約 800 名の地域のみなさまにご参加いただきました。地域のみなさまから数多くのお申し込みをいただきながら、すべてのみなさまのご期待に沿えず大変申し訳ありませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。

この未来からの留学生は、2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により中止され、今回の第 21 回は 3 年ぶりの実施となりました。「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな目的をもつ一方、活動の企画や運営を通じて学生自身が子どもとの接し方を学ぶという目的を併せもっております。各領域からの報告には、企画・実践・振り返りを通じた学びの成果や、子どもとのかかわり方への気づき等に関する学生の記述であふれています。これらの記述は、本事業が後者の目的をはたしていることを示しています。本報告書をお読みいただければ、学生の学びの姿とその成長を実感いただけるものと思っております。

最後に本事業は、香川県教育委員会のご後援を受けて実施され、教育学部事務職員、各領域担当教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本年度の活動の実施に関しまして、多方面からご尽力頂きましたことに深く感謝いたします。

本年度のお申込者数が延べ 2000 名以上となっている状況から、地域のみなさまから本学への大きな期待を感じております。地域のみなさまのご期待に沿える大学となれるよう、今後も大学職員一同努力してまいります。どうぞ来年度以降の活動につきましても変わらぬご理解・ご支援を賜りますようお願い致します。

みらい ★ 第21回 リゅうがくせい
未来からの留学生



日時：令和4年10月9日(日)

受付：12時30分～

会場：香川大学教育学部(幸町北キャンパス)

● 駐車場がございませんので自家用車での来校はご遠慮ください。

主催：香川大学教育学部

後援：香川県教育委員会

問い合わせ：香川大学幸町地区統合事務センター事務課(教育学部担当)

TEL：(087)832-1405

お申し込みはこちらから→



デザイン：大矢桃子・新川未亜

■ 未来からの留学生について

香川大学教育学部では、未来の「アーティスト」や「科学者」、「学校の先生」などを夢見るみなさんが、いろいろな体験を通して大学のよさを知るための体験入学を企画しました。大学生のお兄さん、お姉さんたちと一緒に、楽しい時間を過ごしてみませんか？ご参加お待ちしております。事前申込型講座はホームページから申し込んでください。

高校生とその保護者のための入試相談会（13：00～15：00、事前申込不要）も同時開催しています。

事前申込型講座一覧

受付開始 12:30

1時間目 13:00～13:45 / 2時間目 14:05～14:50



※事前に申し込んだ人だけが参加できるよ。時間に遅れないよう来てね！

講座番号	1	2	講座名	内 容	対象・担当・注意事項
1			動物たちの音楽隊	ブレイメンの音楽隊の劇が見れるよ！劇の後は、手袋おぼけをつくろう！	幼・小1～2、20名。吉川暢子、幼児教育コース学生
2			みんな大好き！色水&紙コップ遊び	いろんな色水をつくったり、たくさん紙コップで遊んだりして、一緒に楽しもう！	幼・小1～6、20名。吉川暢子、幼児教育コース学生 暑が壊れたい、汚れたらすぐ洗濯が必要。また、タオル等をご持参ください。
3-1			音符なんていらさないよ！	身近なものを使って、楽器を作ったり、演奏したりしてみよう！	小1～6、各12名。青田和也、音楽領域学生
3-2			音を楽しもう！		
4			体感してみよう！和歌の美しさを	日本の誇る伝統文化である百人一首…。夏風かきたりあそびを体験して素晴らしい日本の歴史を感じませんか？和歌も簡単なので気軽に参加できます！	小1～6、20名。小西新一、国語領域学生
5-1			ワクワクお掃除ワールド	お掃除の歌について知り、ちよびり体験してみよう！	小1～6、各30名。守田逸人、社会領域学生
5-2					
6-1			せいでんきでとぶくらげ？	「空とお電気くらげ」「発音スチロールスノーフォーム」で静電気体験しよう！	小1～6、各12名。寺尾雅、生活・総合領域学生
6-2			せいでんきじっけんをたのしもう		
7			Welcome to English! 英語劇を楽しもう！	みんなで桃太郎の世界へレッツゴー！	小1～6、20名。ボナ・リアス、英語領域学生
8			ふしぎ!! トリックミュージアム	わくわくドキドキふしぎトリックミュージアムにようこそ！目のさかかくを使って、ふしぎなせかいにとびこもう！	小1～6、20名程度。宮前裕子、心理領域学生
9-1			なんで??	あれ？逆さにしても水がこぼれない！なんでだろう？	小1～6、各15組（保護者を含めて1組：2～3名）
9-2			逆にしてもこぼれない水	大学生と一緒に、謎を解いてみよう！	藤原 夢、理科領域学生
10-1			夢化学21 in Kagawa	磁石につく不思議な液体やブニブニボールづくりをしてあそぼう。化学の日常ページや元素記号カレンダーなどの展示もあるよ。	幼・小1～6、各30名。高木由美子、日本化学会中国四国支部主催行事とのコラボ企画です。
10-2					
11			おもしろ算数・数学教室	はさみとのりを用いて、はさみで切らないで図形を变身させます。算数が好きな人もさらにも、みんなでいっしょに算数を楽しもう。	小学生中年以上（低学年は保護者同伴で可）12名。高野真実、数学領域学生、のり、はさみ、ものさし、えんぴつをご持参ください。
12			レッツゴートゥー・バルーンワールド	バルーンでいろいろな動物やお花を作ってみよう。楽しくおじって、組み合わせてあらふしぎ！すてきなバルーンアートのできあがり！	小1～6、20名。小方利子、特別支援教育領域学生
13			のぞこう！まわそう！自分だけの万華鏡	きれいで楽しい千づくりの万華鏡をつくろう！	小1～6、12名。古草敦史、美術領域学生
14-1			入浴剤を作ろう！	大学生と一緒に、世界にひとつだけの、自分だけのオリジナル入浴剤を作ってみよう！	小1～6、各9組（保護者を含めて1組：2～3名）
14-2					藤原夢、理科領域学生
15			でんきでおそぼう ①ヒカチュウ②パワー!! ヤー	①イライカ機のコースをつくって、ともだちのコースにチャレンジしよう ②風力発電のプロペラをつくって、発電パワーを感じてみよう	小1～6、16名。青田和也、技術領域学生
16			図形の不思議さ	黒線がからみあって正四角体、正十二面体など立体的な図形を作ります。そして、それぞれの頂点、辺、面の個数を数えて長に記入し、その秘密を明らかにします。	幼・小学生、10名。四ッ谷直仁、数学領域学生 黒線用具、消しゴム、セロテープ（またはのり）をご持参ください。
17			折り紙マンとゆかいな紙々	折り紙マンといっしょに、折り紙を折って切っているいろいろな図形をつくろう。	小学生、10名。高野真実、数学領域学生 はさみをご持参ください。
18			マシュマロの不思議	溶かしたり、お菓子を作ったりして、マシュマロの不思議をさがそう。	小1～6、8名。柳五月、家庭科領域学生 持参物：上皿、調理用具、エフロン、保護者の方の入場はできません。
19-1			おはなしの国2022	おはなしの国へようこそ！今日のおはなしは「It's a small world (アップ・ア・スモール・ワールド)」！私たちと一緒に世界の旅にしよう！	幼・小1～2、各30名。藤井佳樹、教育領域学生
19-2					
20-1			うんどうあそびの学校	こっそりにんじゅ、ジャンプおになど、おねえさん・おにいさんが考えたあそびをしながら、みんなといっしょに体育館を走り回ろう！	小1～6、各30名。上野耕平、体育教育領域学生 体育館シューズをご持参ください。
20-2					

講座番号	時間	講座名	内 容	対象・担当・注意事項
21	13:00～14:50 自由参加	教育学部SDGs活動紹介	教育学部教員・学生が関わっているSDGs活動の紹介。自由に立ち寄って見てね。	どなたでも見学可です。高木由美子 事前申込は必要ありません。
22	13:00～14:50 自由参加	模型で見る四国の鉄道	1/80の鉄道模型を展示走行します。	どなたでも見学可です。青田和也 事前申込は必要ありません。

※当日午前7：00に警報が発令されている場合や新型コロナウイルス感染症の感染拡大の可能性がある場合には、対面での実施を中止します。

詳しくは、表面のQRコードから「未来からの留学生」ホームページをご確認ください。

※ご来場のみならず当日の様子を写真・動画撮影し、事業報告資料や本学部広報資料等に活用させていただく場合があります。ご了承ください。



目次

第 21 回 未来からの留学生 を終えて.....	2
1 動物たちの音楽隊.....	7
2 みんな大好き！色水&紙コップ遊び.....	8
3 音符なんていないよ！音を楽しもう！！.....	9
4 体感してみよう！和歌の美しさを.....	10
5 ワクワクお遍路ワールド.....	11
6 せいでんきでとぶくらげ！？.....	12
7 Welcome to English！英語劇を楽しもう！.....	13
8 ふしぎ！トリックミュージアム.....	15
9 なんで?? 逆にしてもこぼれない水.....	16
10 夢化学 21 in Kagawa.....	17
11 おもしろ算数・数学教室.....	18
12 レッツゴートゥ・バルーンワールド.....	19
13 のぞこう！まわそう！自分だけの万華鏡.....	20
14 入浴剤をつくろう！.....	22
15-1 でんきであそぼう ①ピカチュウ.....	23
15-2 でんきであそぼう ②パワー!!ヤー」.....	24
16 図形の不思議さ.....	25
17 折り紙マンとゆかいな紙々.....	26
18 マシュマロの不思議.....	27
19 おはなしの国 2022.....	28
20 うんどうあそびの学校.....	29
21 教育学部 SDGs 活動紹介.....	30
22 模型で見る四国の鉄道.....	31

各講座の報告

1 動物たちの音楽隊

担当教員 吉川暢子・幼児教育コース学生
幼児教育コース2年 岩田 芽衣 大西桃佳

毎年恒例だった人形劇と工作の講座を3年ぶりに開講しました。当日はあいにくの雨でしたが、たくさん子どもたちが集まってくれました。「ブレーメンのおんがくたい」の人形劇では、子どもたちも一緒に手遊びをしたり歌を歌ったりして楽しんで見てくれました。工作も思い思いの作品を作ることができ、楽しんでいる様子でした。



〈学生からのコメント〉

「ブレーメンのおんがくたい」の人形劇では、劇中に歌を取り入れたり照明を効果的に活用したりして、子どもたちが劇の世界観に引き込まれるよう工夫しました。子どもたちが劇に集中している様子が見られ、嬉しかったです。

工作では、手袋や紙コップを自由に飾り付け、空気を入れると膨らむ「てぶくろおぼけ」を作りました。装飾にこだわる子もいれば、早く完成させて遊びに夢中になっている子もいて、各々の遊び方で時間いっぱい楽しんでくれていました。



子どもたちも初めは緊張している様子でしたが、最後には笑顔が見られ、私たち自身も楽しむことができました。

予想通りにはいかないこともありましたが、この経験を活かし、今後の活動に繋げていきたいです。



2 みんな大好き！色水&紙コップ遊び

担当教員 吉川暢子・幼児教育コース

私たち幼児教育コースは、これまでのシャボン玉にかわって、色水遊びと紙コップ遊びを実施しました。1・2時間目を通して行い、子どもたちが好きな遊びを選び、自由に移動できるような形式にしました。

<色水遊び>

色水遊びでは、赤・青・黄色の色水や秘密の色の粉を使い、子どもたちがいろいろな色をつくって遊べるようにしました。子どもたちは色が混ざっていくのをみたり、お気に入りの色を試行錯誤しながら作ったりして楽しんでいる様子でした。学生は「どんな色になるかな?」「〇〇みたいだね。」と声を掛けたりして子どもと関わり、一緒に楽しさを共有することができたのではないかと思います。

<紙コップ遊び>

紙コップ遊びでは、沢山の紙コップを使って子どもたちと自由に遊ぶことをテーマに行いました。環境設定では、子どもの「遊びたい」という気持ちを引き出すために、事前に紙コップタワーをいくつか設置したり、沢山の紙コップを散りばめたりしました。そのため、講座序盤から、子どもたちが自由に紙コップ遊びを楽しむ姿が見られました。様々な年齢の子どもたちが、各々に想像力を膨らませながら自由に楽しむ姿が見られて本当に良かったです。

未来からの留学生の活動を通して、使う道具や素材、環境構成を考えることの大切さを改めて感じました。この経験をいかし、これからの実践に繋げていきたいと思っています。

幼児教育コース3年
荒木日彩・荒木真心
内田美優・田中あかり



3 音符なんていらんよ！ 音を楽しもう！！

担当学生：小倉莉子、三宮ひなた、末澤美咲、辻絢音、安田葵

本講座は、音のイメージを画用紙と色鉛筆等の画材を用いて視覚化することを目標として、413教室で開講した。あいにくの雨天により申し込み人数よりも参加者は少なかったが、保護者の方々も子どもとの対話を通して活動に参加していただき、非常に有意義な時間になった。



準備では、子どもたちの活動の自由度を広げるために、画材の種類や個数、配置、班活動の形式を工夫した。また、安全面には特に注意し、楽器の安全な使い方や予想される子どもたちの危険な行動とそれに対する対策を話し合っ、活動の順序や動線を何度も変更・改善した。

本年度は、昨年度の身近なものを使って音を出すという活動から発展して、出した音のイメージを可視化することを目標とした。昨年度の活動を生かし、用いる楽器は普段音楽の授業などで用いるような西洋楽器ではなく、サボテンやヤシの実など身の回りにあるものを生かした民族楽器を中心に扱った。



大学生も子どもの目線に立って、一緒に思考し支援を行うこと、保護者との対話を通して子どもの特性を理解し、それぞれに合った対応をすることが心がけることできた。

今回の講座を通して、自分たちで計画実行することや、子どもの予想外の行動に対する配慮など大変貴重な経験をする事ができた。この経験をこれからの実習や子どもと関わる活動に生かし、より成長することを願う。

(文責：音楽領域2年 安田 葵)

4 体感してみよう！和歌の美しさを

担当学生：石原朱琳、大竹秀昂、林亜梨菜、橋本明依

国語領域は、百人一首を題材に講座を開講した。小学生にとってまだ馴染みのないであろう和歌に、ゲームを通して触れ合うことで少しでも興味をもってもらいたいという願望のもと、親しみやすさ・楽しみやすさに重きを置いて活動した。



〈子どもたちの様子〉

実際にゲームをやり始めると夢中になって取り組んでいて、楽しんでいるのがひしひしと伝わってきた。また、子どもたち同士での盛んなコミュニケーションも行われていた。講座が終わると、笑顔で「バイバイ！」と手を振ってきてくれる子や「楽しかったから帰ってからでも百人一首やりたい」と保護者に言っている子がいた。

〈大学生の対応〉

競技かるたと坊主めくりのそれぞれの参加人数など、当日にならないと分からない不確定要素があったものの、臨機応変に対応することができていた。一人一人が仕事を探して自分の役割をこなし、真摯に子どもたちと向き合っていた。何よりも、子どもたちと一緒に楽しむことで全体が和やかで温かい雰囲気になっていた。

例年、コロナウイルスの影響で実施されておらず、久々の開講だったということでイメージしづらい部分は少なからずあったものの、自分たちならではの個性を取り入れながら活動することができた。今回の講座で子どもたちが和歌、ひいては国語全体に対してプラスのイメージを持ってくれたら国語領域としてこれほど喜ばしいことはない。それがきっとどんな形であれ子どもたち一人一人の将来に直結していくはずだ。私たち自身も、今回の経験を通して子どもとの関わり方で大きな収穫を得たことだろう。その財産を糧として、これからの教育活動に取り組んでいきたいと強く思う。 (文責：国語領域2年 大竹 秀昂)

前日、前々日の2日間に分けて会場設営に取り掛かった。百人一首の世界に入り込めるような雰囲気づくりにこだわった。また安全性や感染症対策に配慮した並びや飾りつけをした。当日起こりうる全ての問題を想定して、スムーズに進行ができるよう準備をした。講座後の撤収も速やかに終わることができた。

〔競技かるた〕



〔坊主めくり〕



5 ワクワクお遍路ワールド

担当学生：岡本光生・北脇巧也・小坂真也・杉浦ひかり・中村建心・松岡篤矢・
池原明音・石谷優我・歌島祐希・福田雅英・藤岡辰樹
担当教授：守田逸人先生

本講座は、世界遺産登録を目指す四国が誇る文化「四国遍路」について、参加者の方々に少しでも興味、関心を持っていただくことを目標に開講した。事前に発表された参加予定人数は非常に少なかったが、当日の宣伝が功を奏し、予想以上に多くのご家庭が参加してください、盛況のうちに終わることができた。

前半の座学では、「お遍路」を子どもたちに分かりやすいように説明しつつ、社会科領域の大学生として史実からかけ離れない内容を伝えるにはどのようにすればよいか、本番直前まで試行錯誤した。去年までのスライドを見やすく楽しいものに作り直したり、ニュアンスの違いで誤解を招かないように語彙を統一したりするなど、工夫を重ねた。淡々と説明するのではなく、文字だけで分かりにくい部分は劇を挟むことで、学びあり、笑いありの座学を行うことができた。



後半は、お遍路に関するクイズをした。問題文の校閲を繰り返し、子どもたちが正しく新しい知識を得られるよう細心の注意を払った。その上で、ただクイズを行うだけにならないよう、効果音を入れたり、スライドでキャラクターを動かしたりなどの工夫を施した。子どもたちが楽しそうに挙手する様子を見て、学生も心から楽しんでいただいているように感じている。

また、入場の際に、学生が一から作成したオリジナルクロスワードを配布し、帰宅後も家族でお遍路について考え、楽しむことができるようにした。

最後に、希望者がお遍路さんの衣装を着る体験と写真撮影のコーナーを設けた。子どもたちは初めて袖を通す衣装に喜び、その様子を親御さんが撮影し、学生も運営を楽しみ、笑顔に溢れる時間だったという風に思い返す。コロナウイルスの影響で子どもたちと関わる機会が減っている中、「未来からの留学生」が開催できたことで、子どもたちについて真剣に考え、話し合い、協力する貴重な経験をすることができた。今後の活動の原動力や、学生同士の絆をはぐくむきっかけになったと感じている。

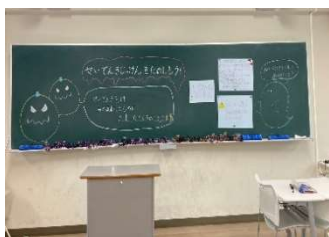
(文責：社会科領域二年 歌島祐希)



6 せいでんきでとぶくらげ！？

せいでんきじっけんをたのしもう！

担当学生：井下ひまり(21L110),小関摩耶(21L129), 佐々木七菜(21L146),
遠山寛大(21L162),難波ひかり(21L170),真鍋怜(21L189),三島蓮(21L190),
宮崎日菜子(21L195),村田優愛(21L199),吉本 芽生(21L208)



本講座では、3つのコーナーを設け、静電気を利用した遊びに挑戦した。10月と言えばハロウィンがあるため、会場の雰囲気をハロウィンチックにして楽しんでもらえるように工夫をした。たくさん子どもたちが訪れ、大いに賑わった。

①電気クラゲをやっつけよう

このコーナーでは、バルーンとクラゲに見立てたスズランテープを使用し、クラゲがバルーンに引っ付くように挑戦した。子どもたちは好きな色のバルーンを選び、クラゲがひっつくように一生懸命にバルーンに静電気をためていた。学生たちは、引っ付けるためのコツを教えたり、静電気をためるのを応援したりして子どもたちと交流を深めることができた。



②パチパチオバケ

このコーナーでは、オバケの目が付いた下敷きを使用して、静電気で髪の毛を逆立てることに挑戦した。大学生が鏡を持って子どもにどれだけ逆立っているのかを見せると、驚いたり、喜んだりして、もっと逆立たせようと張り切って実験に取り組んでいた。



③オバケカボチャスノードーム

このコーナーでは、プラコップと透明折り紙、粘土で作ったカボチャを使用して、静電気で透明折り紙が舞い落ちるスノードームの作成を行った。作成の途中で使用するクルーガンは危険であるため、大学生が代わりに作業を行った。カボチャは子どもたちが自由に顔を描くことができようになっており、様々な個性的なカボチャオバケができていた。



(文責：生活総合領域 2年 村田優愛)

7 Welcome to English ! 英語劇を楽しもう !

担当教員：ポール・バテン教員

担当学生：氏原柊歌, 大西悠, 大塚晴奈, 川口黎明, 河原直希, 杉岡一步, 高嶋早紀,
佃萌花, 野上愛日, 平木公太, 古市純平, 三垣樹里香, 山本里緒奈, 吉満瑛梨

今回、私たちが取り組んだのは、英研の伝統的な英語劇を今までにない新要素で構成するということであった。これから紹介するそれらの新要素は全て「参加型」の劇にするためのものである。1つ目が歌。「桃太郎さん桃太郎さん」の定番の歌を独自に英語化して、子どもたちと一緒に歌うことにした。そのための練習として、冒頭で子どもたちとオリエンテーションの時間を取った。歌詞にあった「Yummy Yummy Delicious!」を紹介するために好きな食べ物を聞いて回り、ジェスチャーでそれを一緒に食べてから「Yummy!」「Delicious!」と言うことで日本語を使わずに意味を伝えた。そして歌は動物さんが出てくるたびに歌った。ギターを持ってみんなで弾き語る形式をとった。2つ目が世界旅行である。お供たちの出身国を変更したのだ。サルは韓国、イヌは中国、キジはペルーのように、国を変え”仲間を探すために世界を旅した”という設定に変えた。それに伴い、挨拶と「ありがとう」はその国の言葉にした。登場時に動物さんが挨拶をして、それに対して子どもたちと一緒に挨拶を真似して返してみる。加えて各国の挨拶のスキンシップも取り入れた。また、動物さんたちを仲間にする際、「I give you KIBIDANGO! Here you are.」というやりとりを子どもたちと繰り返し行い、紙粘土で作ったきびだんごを実際に渡し合った。「みんなのおうちの人も仲間にしよう!」と言って保護者も劇に参加してもらおうようにした。3つ目が CHOICE GAME である。鬼さんと①戦うか②逃げるか③きびだんごをあげるかという 3 choices を用意し、子どもたちに決めてもらうことにした。③きびだんごが一番人気かと思いきや、割と①戦うを選ぶ人が多く、皆も驚いていた。どのルートでも大丈夫なように用意していたのだが、時間的に厳しいことを見て、役者たちが、子どもたちに役柄の心情を打ち明けて、戦わない選択肢があることを伝えていた。それだけ踏み込んだ関係も構築できていた。CHOICE GAME の 3 choices を伝えるときは皆で手拍子をして、リズムよく行った。参加型の劇にする分、当日にならないとわからないことが多く、子どもたちと一緒に作るものとなった。実際、当日が一番楽しかった。ある子どもが「この日を忘れたくない」と言ってくれた。様々な言葉でこの劇の感想を表現できるが、この一言が私たちの全てのように思える。



なぜ、これほど楽しめたのかについて話したい。一番大きな要因は英研のグループ感の良さである。私たちの目的はただ「やりたいことを全力でやろう!」の一つであった。だからこそ、各々の理想に向けて、自然と動き出したのだと思う。劇に使うスライドに当日のBGM、台本の作成に衣装のクオリティ、役者の遊ぶ力、皆が持つノウハウ。どれも「別にしなくてもいいこ

と」だったのかもしれない。こだわらなくとも劇は成立していたのかもしれない。しかし、これらが全て内発的なものだったからこそ、私たち自身、最後まで楽しむことができたし、子どもたちにとっても記憶に残る作品を創ることができたのではないだろうか。

最後に未来からの留学生を通して得たモノについて。私たちが得たのは大きく分けて2つある。1つ目が英研への愛着。途中しんどいことも勿論あった。しかしそれを面白く思いながら、笑いながら乗り越えた。お互いの長所も知れたし、そこから頼り合う関係ができたし、なおかつ「してあげよう」ではなく「したいな！」と思い合える関係ができた。2つ目が全力で生きる楽しさ。自分たちのためにしたことが、結果誰かのためになって幸せを感じる。教職に限らず、より良く生きるためのキーを見つけられた最高のイベントになった。



(文責：杉岡一步, 古市純平)

8 ふしぎ！トリックミュージアム

心理領域 藤原敬大 岡本康介 大森渉輝 磯田裕菜 大櫛紫乃 中山田あかり

私たち心理領域は、「ふしぎ！トリック・ミュージアム」という錯視を用いた体験型展示を行った。多くの子どもを迎え、未来からの留学生たちを盛り上げることができた。



準備段階において評価できる点としては、心理領域2年生が全員で力を合わせて準備ができたことである。意見を出し合い、子どもたちが関心を持てるように様々な工夫を凝らして展示を行うことができた。改善できる点としては、準備を始める時期を早めておけば、もう少しクオリティーを上げることができたことである。また、全体を通しての計画を立てておくべきだったと考える。

開催当日は、全員で力を合わせて子どもたちとかがわることができた。また、場所がわかりにくいため、階段の下で誘導を行ったのも良かった点である。最も良かったのは、子どもたちが錯視に関する体験をしたことで、驚いたり楽しそうにしたりしていたことだ。予想以上に明るく賑やかな時間となった。



一方、改善できる点としては、こちらの人数が少ないため一度に大勢の子どもが来た時に対応するのが難しかったことである。事前にそのような状況を想定しておく必要があったと思う。



まとめとして、子どもたちと直接かかわり、たくさんの笑顔を見ることができてよかった。このような機会はなかなかないので、充実した時間であった。私たちにとって、未来からの留学生で子どもと接したことは、とても貴重な経験となった。

(文責：心理領域2年 藤原敬大)

9 なんでも?? 逆にしてもこぼれない水

担当学生：谷川大介、川崎知真、山下柊真、川田茉里奈、前川尚紀

本講座は、身近な現象が重なることで、直感に反する現象が生じることを確認することを目標にして教養物理学実験室で開講した。入口で列ができていたため、開講時間を遅らせて実施した。棟の端の教室であったにもかかわらず、多くの子どもたちや保護者に足を運んでいただき、大いに盛り上がった。



準備の段階では、子どもたちに見えやすいように色水を用意したり、前のスクリーンに映し出したりするなどの配慮を行った。また、実験では水を使用しており、こぼれて濡れる可能性があるため、ペーパータオルや雑巾などを大量に用意するなどの準備を行った。

キッチンで使う水切りネットをコップにピンと貼って、大気圧と表面張力によってコップをひっくり返しても水がこぼれなくなる現象を子どもたちと体験した。子どもたちは保護者と一緒に前のスクリーンに映し出した映像と同じ実験を行った。上手く実験が成功しない班には、担当の学生が行って一緒に実験を行った。水が零れることが多々あったものの、子どもたちにかかるようなことはなく、身近な現象を体験しながら実験できたため、理科を学んだことのない小学低学年の子供たちも楽しんでいた。



実験が成功するように、大学生が部屋を回りながら声をかけ、そして実験を手伝った。各子どもたちに対して柔軟に対応でき、学年の異なる子供たちがいる中、講義を成功させることができた。



本講座を通して、子どもたちを相手に、どこまで準備をするのか、説明をするのかなど、様々なことを考えるきっかけになった。これらの経験を、これから子供たちと関わる機会に生かしたいと思う。

(文責：理科領域3年 谷川大介)

10 夢化学 21 in Kagawa

担当：高木由美子

夢化学 21 in Kagawa は日本化学会中国四国支部が主催となって行われた行事で、化学の啓発と化学産業の社会への貢献の理解促進を目的として1993年から実施されているキャンペーン事業です。

香川大学ではこの夢化学 21 の行事と連携して毎年開催してきました。香川大学の学生が主体となって夢化学 21 のブースで行うオリジナルの実験や学生が考えた実験を準備してきました。しゃぼん玉の実験やぷにぷにボールの作製などを例年の開催で実施してきました。



今回の未来からの留学生では、磁石につく不思議な液体(磁性イオン液体)の作成とぷにぷにボールすくいの二つのブースを用意しました。今回は新型コロナウイルスの影響もあり、事前に申し込みをした前半 12 名、後半 12 名の合計 24 名の児童が参加してくれました。磁性イオン液体の作成実験はおもしろワクワク化学の世界で作成した磁性イオン液体の作成キットを基盤として児童一人一人が作成できるように個別にキットを配布しました。キットの作成の前に事前に用意した紙芝居を用いてイオンや今回作る磁性イオン液体についての説明を

しました。説明の途中では子供たちからの発言が見られたり興味を持って話を聞いてくれたりしているのがわかりました。ぷにぷにボールすくいの説明では複数の色を用意することで、子供たちが欲しい色を選んでボールをすくうことができるように最初にどのような色があるのか、ぷにぷにボールがどうやってできるのかを実際に演示しながら説明することで、ボールすくいへの関心が高まるように工夫しました。ボールすくいではうまくすくうことができる子、失敗してしまう子がどちらもいたため学生が子ども達の様子をしっかりと見てサポートできるように対応しまし



た。活動後には化学の日缶バッジの配布もあったため、それを持ち帰って喜ぶ様子も見ることができたため次回の開催でも子供たちが楽しめる実験や体験を考えていきたいと思っています。

(文責： 清川真)

11 おもしろ算数・数学教室

代表：数学領域 西岡優太・担当教員：杉野本先生

学生：池下愛莉 谷久智哉 西岡優太 畠中純 宮本悠希 渡邊実暉

○活動内容

本講座は前半・後半の2時間続きで実施し、主に等積変形を題材とした講座である。等積変形とは、面積の大きさを変えずにある形から異なる形へと変化させることで、講座では実際に色画用紙を切ったり組み換えたりすることで、等積変形を体験してもらった。導入では二つの三角形を用いて、面積の大きさを比較する方法を考察してもらい、「重ねる」「変形させる」ことを認識させ、本題の問いにつなげた。一つの図形から異なる一つの図形へ変形させる問題、その後二つの正方形から一つの大きな正方形を作る問題を解いてもらった。教室後方に、すでに切られたパネルを設置し、ヒントとして実際に動かして図形の変形をしてもらった。



○活動を通して

本講座で扱う問題は難しいものが多い。①、②の問題は導入の時点で扱い、子どもたちは簡単に解いていた印象であるが、本題となる③～⑪、⑬～⑯の問題では苦戦している子が多かった。はさみで切って枠に入るかどうか、試行錯誤をしてもらうため、色画用紙や折り紙は人数分よりかなり多く用意しておくが良い。学生の想定していない切り方や、少し違った図形が完成してしまう場合も見られた。中には、「なぜそこに切り込みを入れると良いのか」と質問をする子もいた。臨機応変な対応が求められるため、十分な予習が必要になる。時間配分は今回の反省点である。時間内に終われるように、黒板に書く、常々周知する等の対策を次年度以降してほしいと思う。



難しい問題が多い中、子どもたちは活動に積極的に参加し、分からない問題は学生に聞くなどして、正解にたどり着こうとする様子が見られた。また、保護者の方にも参加していただき、子どもたちと共に悩んでいただけているように感じた。終了後も問題の答えのパネルを見たり、解説を聞きに来たりと、子どもたちの興味を引き出した講座ができたのではないかと思う。準備したものに積極的に取り組んでくれて、学生一同嬉しい限りである。貴重な経験をさせていただいたことに感謝し、学びにつなげたい。

12 レッツゴートゥ・バルーンワールド

担当学生：特別支援領域学生

本講座は、学生とさまざまな種類のバルーンアートを作り楽しむことを目標とし開講した。低学年から高学年まで幅広い子どもが訪れ、兄弟の幼児や乳児の姿も見られた。

準備では、剣、ハート、リボン、犬、花、亀、ぴよんぴよんネズミの7種類のバルーンアートが作れるように練習し、バルーンを作るだけでなく、的あてのようにして作ったもので遊べるコーナーも設置した。作りたいものがイメージしやすいように、完成したものを教室の入口やホワイトボードに貼り付けた。また、小学生の力ではバルーンを膨らませて結ぶことが難しいという点から事前にさまざまな色のバルーンを膨らませておいた。

机の配置を四角にし、他の子どもが作っているものを自分も作ってみたいと思えるように工夫したことで常にみんながなにかを楽しく作っている講座になった。「バルーン何色がいい？」と聞くと色を答えてくれる子もいたが、難しい子もいた。そうした子にはバルーンを置いているところへ一緒に行き、「どれにする？」と聞くと選べていたので適切な関わりができたと感じている。

犬や亀に顔や模様を描いたり剣をカッコよく振りまわしたりと、子どもの集中した顔や元気な姿が見られた。また花や亀は腕につけられるようになっていたので、たくさん付けて笑顔で帰っていく姿が印象的だった。実際に子どもと関わるという大変貴重な経験ができたといえる。来年の教育実習やこれからの子どもと関わる際に今回の経験が役立つと思う。

(文責：特別支援教育領域2年 杉本美菜)



13 のぞこう！まわそう！自分だけの万華鏡

担当：古草敦史・美術領域学生

〈事前準備について〉

万華鏡の筒をデザインするためのマスキングテープ、ビーズはシンプルなものだけでなく、柄の入ったものや子どもたちの好きそうなキャラクターが入ったものを選んで購入しました。白画用紙を適当な大きさに切ったものを用意し、子どもたちが自分の好きな絵を描いてデザインできるようにもしました。口頭での説明だけでは、子どもたちに伝わりにくいと判断したため、黒板に作業の手順を書きました。板書する時には低学年の子どもも参加するため、簡単な漢字を使ったり、読み仮名を書いたりすることを意識しました。また、1週間前にリハーサルを行い、役割の分担や時間配分などについて話し合いました。

リハーサルには、他学年の学生にも参加してもらい、意見を出してもらいました。先輩たちもほとんど経験はありませんでしたが、教育実習などの経験を踏まえた的確なアドバイスをしてもらいました。前日の準備期間にある程度の準備は済ませました。

〈当日について〉

当日は雨が降っており集合時間に間に合わない参加者もいました。そのため、開始時刻が10分ほど遅れてしまいました。しかし、子どもたちが意外にも早く作業をこなしていったため、結果として丁度良い時間に終了することができました。まずは、手順に従って、万華鏡の筒のデザインを始めました。保護者の方と協力しながら、きれいな筒を作っていました。机に置いていたマスキングテープ以外にも、教室の中央に配置



したシールを貼ったり、白画用紙に自分の好きな絵を描いたり、折り紙で作った作品をそのまま筒にくっつけたりしている人もいました。様々なデザインの仕方を見ることができ、面白かったです。

1時間ほどしてから反射鏡を作り、筒の中に入れる工程に入りました。反射鏡をきれいに三角形にするのは難しく、また、マスキングテープでは粘着力が弱いため、子どもたちは苦戦していました。リハーサルでは制作キットの数が限られていたため、実際に作ることはしませんでした。そのため、子どもたちの苦戦を想定しておらず、少し慌てました。しかし、ある学生がセロハンテープで補強することを提案して、なんとかなりました。

最後に、前のキャップにビーズを入れて模様を観察することになりました。ここに関して



も、ビーズをどれぐらい入れたらきれいに見えるのか、事前検証が足りておらず、質問されて困りました。しかし、どれぐらいがきれいに見えるかは、人それぞれであるため、正解を出しておく必要はなかったのかもしれないとも思いました。この反省を次に生かしたいです。出来上がった万華鏡を満足そうにのぞいている子どもたちの姿を見て、この活動をして本当に良かったなと思いました。

14 入浴剤をつくろう！

担当学生：有門知優、越智遥香、小野玲奈、妹尾葉月

本講座は、生活において身近な入浴剤を手作りすることで、楽しみながら生活と理科を結び付けることを目標とした。1号館と、他の領域の展示と離れた場所での開催であったため、周りは静かであったが、講座が始まると子どもたちや保護者の方々が大いに賑わった（写真1）。



対面での実施は3年ぶりということで、分からないことも多かったが、一人一人が自分に出来ることを考えて動くことができたので、楽しく本番を迎えることができた。

何度も試作品を作り、どの材料をどのくらい入れると失敗しないかを調べ、全員が理解した状態で本番に臨むことができた。

作る前に、出来上がった入浴剤をお湯に溶かすとどうなるかを前で実演した（写真2）。すると、子どもたちの間から「わあー！すごい！！」という歓声があがって、こちらも嬉しくなった。また、その際に入浴剤がシュワシュワする原理を説明することで、理科の面白さを伝えることができた。



写真2 入浴剤を溶かして実演している様子



写真3 参加者が大学生にアドバイスをもらいながら入浴剤をつくる様子

大学生はまわりながらアドバイスをしたり、褒めたりすることを心がけた（写真3）。

また、材料を余分に用意できたため、兄弟で来られた家族にもう一人分渡して体験してもらうことができた。

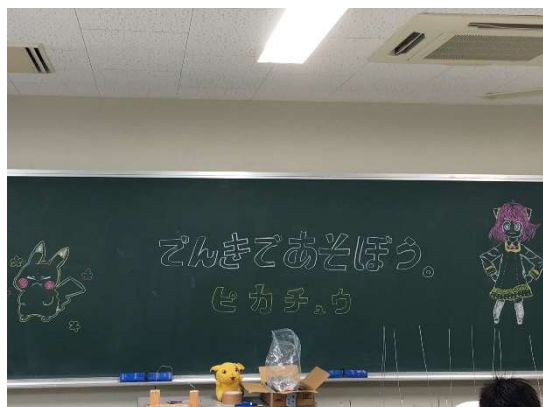
来ていただいたすべての方に気持ちよく、楽しい体験をしていただけるような対応ができていたと思う。

（文責：理科領域2年 越智遥香）

15-1 でんきであそぼう ①ピカチュウ

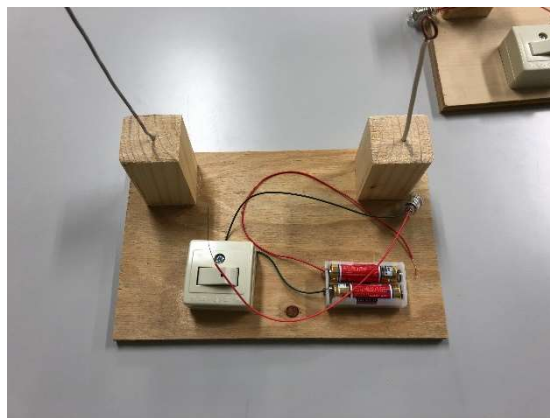
担当学生：藤田太紀

本講座は、イライラ棒のコースを子ども自身に作ってもらい他の参加者の作ったコースでも遊ぶ講座である。今回は8号館の演習室3で1時間目と2時間目に開講した。技術領域ではもう一つ講座を同時に開講していたが、最初にこちらの講座を選ぶ参加者が多かった。一度にたくさん来たので最初は戸惑ったが、当日手伝いに来てくれた1年生と3年生も対応に当たってくれたのでスムーズに案内をすることができた。



今回教室の装飾は予定していなかったが、やはり少し寂しいと感じて1年生と3年生の方が黒板にイラストを描いてくれた。またピカチュウのぬいぐるみも置くことにした。本講座は一部分工作を伴うので子どもたちをどのようにサポートするか、道具の使い方などを話し合った。

イライラ棒にも種類があり、当初は皆で釘を打って一つの巨大なコースを作る計画も立てていたが今回は小さなコースを一人一台ずつ作るようにした。一人一台にすることでお持ち帰りが可能になり皆喜んで持って帰ってくれたので良かった。台座はある程度私たちが作っておき、子どもたちには針金でコースを作るのと導線をつなげる作業をやってもらった。子どもたちは一本の針金だけで様々なコースを作り楽しんでもらった。



講座が始まる前は子どもとどう関わったらよいか不安だったが、いざ触れ合ってみるとすぐに慣れることができた。1年生も子どもの関わり方にとっても慣れていて大活躍であった。昨年はコロナにより中止になって今の3年生は未来からの留学生を体験したことがなかった。今年は無事に開催できたので1、2、3年生ともに良い経験ができたと思う。

15-2 でんきであそぼう ②「パワー!! ヤー」

担当学生：稲垣温人

本講座は、ペットボトルを使用した簡易的なプロペラを用いて、風力発電について学ぶものである。今回は 8 号館の演習室 2 で 1 時間目と 2 時間目に開講した。参加者を見ている限り、先にもう一つの講座を選ぶ親子が多く、初めは不安だったが子供たちが楽しそうに作っているところを見て、安心することができた。

右の写真は、参加者がペットボトルを切り、風の抵抗を受ける部分である羽を作成しているところである。見ていたところ「ハサミでは切りにくい」との声があり、カッターを準備しておく必要があると感じた。この講座ではペットボトルの切り方でどの程度回るかが左右されるので保護者の方と協力するように促した。



左の写真は実際に実演しているところだ。写真を見てわかる通り、ペットボトルが複数箇所切られており、この部分をテープで固定することで扇風機の風を受けるようにしている。そして、デジタルマルチメータを利用し、どの程度電流が流れるかによって実験が成功したかどうかを判断した。

右の写真は、実際に参加者が自分の作品に電流が流れているか確認している場面だ。各参加者を見るとマルチメータの針が動き、電流が流れたときは達成感を感じて笑顔が見られた。ペットボトルの切り方も様々で個性あふれる多くの作品を見ることができた。教育実習終わりで疲れている中、協力していただいた 3 年生と 1 年後を見据えて協力してくれた 1 年生のおかげで最高の講座になったのではないかと自負している。来年は協力してくれた 1 年生のためにも自分も参加したいと考えた。



16 図形の不思議さ

担当学生：河井・木村・中田・中山・三宅・村木

本講座は、5種類の正多面体を展開図から組み立て、面・頂点・辺の数の関係を明らかにすることを目標として開講した。



準備では、展開図を作成し、子どもたちが組み立てやすいように折り目を作る工夫を行った。また、対象者が幼稚園児から小学6年生と幅広かったため、どのように授業をすれば興味がわくのか、幼稚園児に対して足し算や引き算をどうやって理解させるのかについて話し合った。

授業の導入部分は、図形の名前の確認や身の回りにある図形を考えた。次に、5種類の正多面体を組み立てさせ、各自で面・頂点・辺の数を数えさせた。最後に、面・頂点・辺の数の答え合わせをして、オイラーの多面体定理（面の数+頂点の数-辺の数=2）について分かりやすく説明した。



開講当初は、幅広い年齢の子どもたちが、授業に興味を持ってくれるか、立体を作れるか不安に感じていた。しかし、どの子どもも前を向いて授業を聞いてくれていた。立体を作るときも保護者と協力しながら作っていた。うまく作れていない時やどのように組み立てるか悩んでいる時に、私たち大学生が補助に入り手伝うこともあった。作る立体の説明をしていなかったため、何の立体を作っているのか理解していない子どもが多かったり、立体を作るのに手間取ってしまい時間配分が上手くいかなかったりした部分が今後の課題点として挙げられる。もっと子どもたちの目線になって授業や活動を考えることで、より改善が出来ると思う。

今回の講座を通して、自分たちで計画することや授業を行うことの難しさを感じた。また、保護者と子どもの関わり方の違いや難しいことをする際に子どもたちに対してどのような支援が必要か深く考えることが出来た。今後の実習などで子どもたちと関わる時には、今回の経験を生かしていきたい。

17 折り紙マンとゆかいな紙々

代表 数学領域 前島史弥 (21L184)

担当教員：高野先生

学生 ：前島・前田・佐藤・岡嶋・岡崎

・内容 ; 事前申し込みで応募してもらい、子どもたちを各 10 名程度を招いた。45 分間の講座内では折り紙を折り合い、ひと裁ちのはさみで「星型」を作ることを参加者全員の目標メージした。その後、15 分ほどの自由制作時間を設け「ハート」や「桜」などの難しい課題にも挑戦する子どももいた。

・反省 ; 参加してくれた子どもたちの中には「星型」をひと裁ち折りで作るのが難しく泣きそうになっている子も見受けられた。1 人の大学生に対して 2 人の子どもを担当していたので広い視野を持って、それぞれの進行状況を合わせる努力をするべきだった。

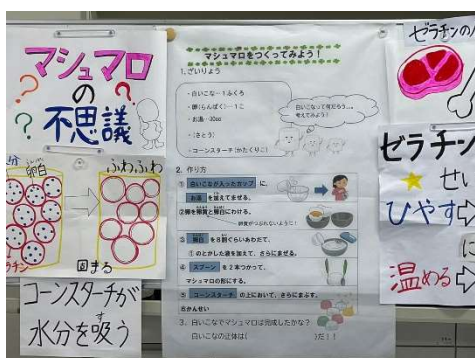
・感想 ; ひと裁ち折りで星型になった時、子どもたちの驚きと喜びの顔がとても印象的でこの日のために準備してきた良かったと思える瞬間だった。子どもたちの純粋さに触れ、本当に充実した 1 日だった。



18 マシュマロの不思議

担当学生：平田優里奈 吉本紗英 田村誠亜 中越美優 西江萌生 細谷真子

本講座は、マシュマロの実験を通して子どもたちにマシュマロの不思議を教えるとともに、科学の楽しさや身近な食べ物の不思議に興味を持ってもらうことを目標として開講した。「マシュマロが美味しそうだから」や「お菓子作りが好きだから」という理由で応募をしてくれた8人の小学生が来てくれた。



準備では、まず発表原稿作成、ワークシート作成、板書用の掲示物作りや実験準備などに分かれて作業をした。発表原稿を考える際は、子どもたちの反応を推測し、どのような問いかけをしたら分かりやすいかなどを考えながら行った。言葉の選び方が少し変わるだけで、子どもにとって分かりやすい表現になることが分かった。学生同士で小学生の役をするなどしてリハーサルを何度も行った。板書用の掲示物作成では、子どもたちに

図や絵を通して、耳からだけでなく視覚からも情報が入るように工夫をして作成した。

本番では、教室に入ってきた子どもたちに積極的に話しかけ、緊張のない雰囲気づくりに努めた。子どもたちの感想の中には、「家でもやってみたいと思った」や「楽しかった」という言葉が聞かれた。自分たちの身近な食べ物について興味を持ち、実際にやってみたいという気持ちがこの講座を通して、子どもたちにできたことをとても嬉しく思った。



未来からの留学生は初めてだったため、計画や準備は大変だったが、とても貴重な経験になった。子どもの反応を考え、準備をし、それを子どもたちの前で実行し、子どもたちの様々な表情や反応が見られたことで達成感を感じた。これからも、今回の子ども理解をもとに勉強を積み重ねていきたいと思った。

(文責：家庭科領域2年 中越美優)

19 おはなしの国2022

本講座は「おはなしの国2022」と題して、シルエットクイズ、参加型のダンス、演劇を行なった。演劇はイツアスモールワールドの絵本をモデルに、台本から衣裳や小道具、音響などを協力しながら準備した。当日は約30名の幼児、小学生が参加した。

○シルエットクイズ



○ダンス



○劇



シルエットクイズでは、感染対策として、手の形で解答ができるようにし、子どもたちが声を出さずに楽しめる工夫を考え、実施した。参加型のダンスでは、振り付けの解説を子どもたちにわかりやすい言葉で行なうように心がけた。劇では、演者が楽しみながら、笑顔で演じることができた。また、子どもたちの観劇に集中している様子が見られた。

後日、未来からの留学生の振り返りを行なった。評価できることとして、計画的に練習が行われていた点や、待ち時間に子どもとコミュニケーションをとり、対応できていた点等が挙げられ、反省点としては、講座場所への案内が不十分であり、そのために参加者が予定時間に集まらず、開始時間が遅れてしまったこと等が挙げられた。これらの点は後輩に引き継ぎ、来年の未来からの留学生に役立てていきたい。

本講座に取り組んだことで、計画を立て、協力して取り組むことのやりがいや、自分たちの働きかけで子どもが楽しんでくれることの喜びを実感し、貴重な体験ができた。この体験を今後生かし、子どもとの関わり方について学んでいきたい。

20 うんどうあそびの学校

担当：上野、保健体育領域学生

今年の未来からの留学生で、保健体育領域では、「ジャンプおに」「こっそりにんじゃ」「ドッチビー」「しょうがいぶつりレー」の4つの「がっこう」に分かれて、子どもたちと一緒に体を動かし、交流しました。

【ジャンプおに】



【こっそりにんじゃ】



【ドッチビー】



【しょうがいぶつりレー】



総評

今回の未来からの留学生を通して、コロナ渦で、外で遊ぶ機会が減っていた子どもたちにとって、学校ではなかなか行われなような運動遊びを楽しく行うことができたので良かったと思います。一番大切なことである安全面について、準備の際に、運動や用具の危険性について想定して対策することの大切さも学ぶことができました。コロナ渦ではありますが、リスクの度合いを見極め、運動する際にマスクを必ず外させるように指導しました。講座中には、子どもたちの楽しそうな笑顔が見れたため、とてもうれしかったです。

(文責：保健体育領域2年 河田菜々子)

21 教育学部 SDGs 活動紹介

担当：寺尾 徹、高木由美子

SDGs（持続可能な開発目標）は、国際社会における多様な課題に対する意識の啓発と、その解決に向けた行動を促すものであり、地球規模の課題への挑戦であるとともに、国や地域が直面している社会的課題の解決に寄与するものです。

香川大学では、「SDGs の取組の強化」を重要施策の一つとして掲げ、地域の多様な環境や資源の保全・活用や地域の課題を探究し、持続可能な社会の創造につながる取組を推進してきました。2021年12月には、「SDGs 推進タスクフォース（TF）」を設置し、全学的な推進体制で活動に取り組んできました。

2022年10月9日（日） 未来からの留学生



教育学部SDGs 活動紹介

香川大学教育学部は SDGsに関する活動を推進しています。



 わくわくコンサート	 日本語教員コース	 未来からの留学生	 岡山地域の江戸時代以降から現代までの魚類利用の研究、岡山後楽園の記録に焦点を当てて
 気候変動にもなるアジアにおける環境資源再生メカニズムの解明と予測	 AIオン連体を活用した地域貢献—個性AIオン連体を作る	 環境に優しいマイクロスケールコミュニティ	 「子どもの『声』を聞きとる」保育・教育の実践プロジェクト
 高松市・香川大学・高校中央商店街で音楽ポードの作成	 誰がいのある方の生活と社会参加を支援するアプリを開発	 附属坂出小学校・教室と保護室をつなぐオンライン学習の実践	 香川大学生の「さぬき市観光地域づくり懇談会」への参画
 観光資源・鉄道を活用し音楽活動を通して持続可能なコミュニティの実現を目指す	 1人で6分以内で朝食を作る	 かがわけん科学体験フェスティバル	

教育学部も、その活動に積極的に参加し、教育学部の教職員、学生、附属学園のSDGsに関する取組をホームページ上で公開に協力してきました。さらに、SDGs教育プロジェクトとして、教育学部の教職員、学生、附属学園が行っているSDGs教育に関する活動を資金援助したり、独自のHPやポスターなどで広報するなど様々な後方支援をしたりしています。今回の未来からの留学生でも、自由参加型講座として、未来からの留学生に参加してくれている児童やその保護者、オープンキャンパスに参加してくれている高校生、そして未来からの留学生を盛り上げている教育学部学生にその活動を紹介する取り組みとして、附属高松小学校、附属坂出中学校のSDGsの取り組みを紹介し、SDGs教育プロジェクトのロゴが入った缶バッジを配布しました。教育学部の学生として



この活動が今後ますます広がっていくといいなと思っています。

香川大学 SDGs ホームページ

https://www.kagawa-u.ac.jp/sdgs_action/

（文責：京免珠生）

22 模型で見る四国の鉄道

担当教員：黒田 勉

協力学生：教育学部学校教員養成課程，技術教育3・4年生

本年度も2019年度に引き続き，8号館811講義室で行った。



上図は811講義室の入口を写したもので，また，右図は8号館の入口にポスターを掲示した様子で，本講座の存在のアピールを図っている。

例年通り，車載カメラからの画像をプロジェクタでスクリーンに投影している。



自由参加型の展示ということで特に人数をカウントしていないが，ひっきりなしに参加者が訪れるということになった。